

男女共同参画推進懇話会委員を

紹介します

▼問い合わせ先 総務課 総務・男女共同参画班(合志庁舎)
☎(248)1112

男女共同参画推進懇話会は、「市男女共同参画まちづくり条例」により市民の視点による男女共同参画のまちづくりを推進し、男女共同参画に関する基本的かつ総合的な施策や、重要事項を調査研究するための市民会議です。

18人の委員で構成され、学識経験者、各種団体推薦者、公募による者、市長推薦者で組織し、市長が委嘱しています。任期は2年です。

7月1日付けで新しい体制になりましたので、あらためて全委員を紹介いたします。



男女共同参画推進懇話会委員

会 長	塚本 薫	委 員	林田 洋一	委 員	平岡 純子
副会長	田中 洋美		高木はるみ		溝口 敏博
委 員	末次佐代子		田口 善勝		内之段明子
	松本 武士		村上 亨予		山本 州江
	左座 美紀		西口 茂子		原 恭平
	谷口 亮		森 泉		坂本 高繁

市民のそばで
地域の安心・安全を守る

消防団

新消防団長就任あいさつ



市消防団 中川 幸次 団長
ながわ こうじ

4月1日に市消防団5代目団長を拝命し就任しました、中川幸次です。まずは熊本地震で被災された皆さんに対し、深くお見舞い申し上げます。

私たち消防団は、自分たちのまちを自分たちで守るべく、日ごろから消防団活動に取り組んでいます。普段は各自の職業に就きながら、火災や災害が発生したときは自宅や職場から現場へ駆け付け、地域での経験を活かした消火活動を行います。非常時以外にも、休日や仕事が終わった後は、消火活動を迅速に行なうための消火・規律訓練などに励み、ポンプ車で地域を巡回する警戒活動や年末夜警、祭りなど

地域行事への協力や清掃活動にも取り組んでいます。

このたびの地震における消防団の活動は、避難者の誘導や搬送、避難所運営、地域の被害状況確認、災害危険箇所巡回などを行ないました。地域で即時に対応できる組織として、消防団の重要性を再認識したところです。

地域に密着した消防機関として、地域住民との結びつきや防災力の強化は、安心・安全なまちづくりの実現に欠かせません。消防団を取り巻く現状は厳しいものがありますが、10年後、20年後に、市消防団がさらに強い団結力を持つために、今できる事に精いっぱい取り組んでいきたいと思っております。今後ともご支援ご協力をお願いします。



左から 安田秀一副団長(新任)、白井仁史副団長
中川幸次団長(新任)、志垣健二副団長
池田雅和副団長(新任)

地域分団を紹介します

本市の消防団は、団長以下、副団長4人、分団長15人、分団員725人の総勢745人で組織されています。次の15の分団が市内の各地域で活動しています。

団長		副団長		分団(分団長・隊長名、人数、地区)																																																							
中川 幸次		志垣 健二 安田 秀一		白井 仁史 池田 雅和																																																							
第1分団	44人	岡田 敦	出分、上古閑、御領、野付	第2分団	68人	大塚 俊一	日向、上町、下町、横町	第3分団	27人	澤田真佐貴	二子、油古閑	第4分団	45人	上野 聡	上庄上、上庄下	第5分団	40人	山田 真嗣	原口、原口下	第6分団	59人	松岡 祐作	平島、鹿水、中林、後川辺	第7分団	35人	池田 高史	生坪、弘生、江良、高木	第8分団	42人	吉住 光生	辻久保、小合志、立割、黒松	第9分団	48人	杉本 悦史	東、湯ノ端、外園、中尾、灰塚	第10分団	61人	上村 竜美	北、本村、辻、城、上生	第11分団	62人	中谷 聡	大池、若原、御代志	第12分団	46人	伊藤 博幸	新開、黒石団地、黒石、木原野、みずき台	第13分団	56人	池永 一心	須屋、上須屋、堀川	第14分団	56人	松崎 由紘	南群、上群、下群、黒石原	本部機動班	51人	中山 大志	市役所

夏季訓練を実施しました

8月21日、市消防団夏季訓練を実施しました。本年度から団長に就任した中川団長と、副団長に就任した安田副団長、池田副団長から就任あいさつがあり、訓練では西消防署と泉ヶ丘消防署の指導のもと、通常点検訓練が行なわれました。



素敵な人生
素敵なパートナー



男女共同参画推進懇話会
会長 塚本 薫
つかもと かおる

熊本地震。甚大な被害が出て未だ行く先長い復興の途中ですが、私はかけがえのない大切な経験をしました。

多くの皆さんの心温かい支援を受けたことはもちろんですが、逆に私たちができる支援で避難所回りをしているとき、その中で復活した温かいコミュニティに触れたときのことです。同じ段ボールの間仕切りの中に、足の悪い女性と本を読んでいる男性がいました。てつきりご夫婦だと思い話し掛けてみると、同じアパートの住民同士とのことでした。月に1度の掃除の際に、女性の足が悪いことを

知った男性が、地震発生時に女性を避難所に連れて来たそうです。まだ余震も多く、女性の不安を和らげるために男性が寄り添って同じ間仕切りにいるとのこと。「近くにこんな優しい人がいたなんて」女性はいっぱい涙目。その年配男性はこの女性だけではなく、そのアパートの上下階の人たちにも漏れなく声掛けをしていたそうです。アパートの被害はまだ分らないそうですが、できるならそこに戻りたいと女性は言っていました。今度は、楽しい近所付き合いができそうだと。そんな話を照れくさそうに聞いている男性。思いやりのコミュニティの復活を感じました。

男女共同参画は、深く思いやりのある、共存共栄の社会形成です。女性も男性も子どもたちも、高齢者や障がいのある人、誰もが社会に関わる一員であることを認識し、幸せな環境づくりをすること。この地震を通して、いま一度考えさせられました。